

<統計データ>

- ・製造品出荷額等が大きい。(H30年7,091億円。東京都2位)
- ・製造業従業者数は持ち直している。(H21年8,639人→H30年8,672人)
- ・事業所数が減少している。(H21年84事業所→H30年68事業所)
- ・輸送用機械器具製造業の従業者数、粗付加価値額の割合が大きい。

<商工会アンケート>

- ・経営上の問題点:①人材確保、②業務効率化・生産性向上、③顧客や販売先の拡大・開拓、④収益の確保、⑤設備の不足・老朽化 (上位5項目)
- ・IoTやAI、DXについて、導入・取り組んでいるもの:①受発注管理システム、①財務会計システム、③勤怠管理システム、③給与支払いシステム (上位4項目)
- ・望まれる支援策:①人材育成、②雇用の維持・拡大、③取引先の拡大・マッチング (上位3項目)

【現状に関する意見】

- ・工場用地、駐車場の不足
- ・工場地域の住宅化

<関係団体ヒアリング>

- ・工業集積があるのは顧客の多さにもつながるので良い。
- ・人材確保は青梅線沿線全体で考えても大変。立川から青梅線に入ってくると、人材が集まりにくいイメージがある。
- ・商工会・他企業・行政との関係も密なので仕事がしやすい。
- ・支援制度も充実していて、他自治体の事業者から羨ましがられる。(企業活動支援員制度など)
- ・TAMA協会のような広域で活動している組織があると、市外の企業ともつながれる。何かと相談しやすい。
- ・市内の大企業が中小企業のことを知らない。取組み始めているが、まだ交流は少ない。
- ・羽村市に立地するメリットは東京都内だということ。多くの企業に会いに行きやすいということもあるが、逆にどこに行くにも中途半端だとも言える。
- ・派遣人材の質が落ちている。長期で働いてくれる人が減っている。求人媒体が発達して情報を取りやすいため、簡単に仕事を変えるようになってしまった。
- ・人材育成支援を強化してほしい。
- ・航空機関連の業界は止まったままだが、半導体関連は逆によく動いている。
- ・コロナ関連の支援が届いていないところもある。
- ・市として企業誘致対象の業種を絞込んだ方が良いのではないかと、医療機器などの特定分野に取り組むこともあって良いのでは。
- ・製造現場としては羽村でなくても良い。研究開発部門が立地するのであれば羽村は最西端だと思う。誘致ではそこを狙っても良いのではないかと。
- ・川崎市にある「かながわサイエンスパーク」のような施設があると研究開発系の事業所が来てくれるのではないかと。工場アパートのようなものも良いのでは。
- ・住民から操業に関する苦情があった場合、市が間に入って説明するなどの対応をする必要があるのではないかと。
- ・地域で事業者の顔が見えていないと苦情が来てしまう。産業祭や清掃活動などでもっと顔を売ったり、それを発信していくことも重要ではないかと。
- ・DX、CASE、脱炭素などは、一つの市ではなく広域で取り組んだ方が良い。
- ・ついでにエアコン導入の「店舗・事業所等改修支援業助成金」は役立った。市には時宜にあった支援制度をフットワーク軽くやってもらえるとありがたい。
- ・補助事業の活用事例の共有、身近な事例をまとめても良いのではないかと。
- ・テレワークの普及などにより、「テナントが入らない」という理由で箱モノの新設はなくなっている。公共事業も減っている。ウッドショックの影響は大きく、現場が止まるほどではないが、遅れることがある。
- ・在宅時間が増えたことで、個人のリフォーム需要は増えているようだ。
- ・建設・土木業で販路は広げようとしてできるものではない。ちゃんとコマースをして、対応力や対応の早さ、人がやらないことやることでPRしていくしかない。
- ・地元業者を一覧で見られるものがweb上にあると良い。対応できる技術・工事の種類などで分類して掲載し、そこから問い合わせできるシステムであればなお良い。
- ・人材確保は最大の課題。社員が高齢化し、5年、10年後に現場を維持できるか不安。建設業界は週休2日ではないなど、厳しい労働環境から敬遠されがち。職人として一人前になるにも時間がかかり、定着させることも課題である。
- ・生産性向上とって新たなソフトやアプリケーションを導入するのもハードルが高い。導入後のランニングコストもネックである。
- ・省エネ・バリアフリー・小規模リフォームへの補助金があると市内事業者振興になるのではないかと。



抽出されるキーワード

